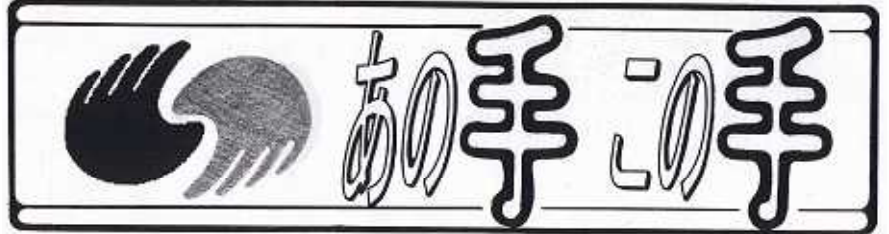


春がきた  
春がきた  
どこにきた



第14号 2008年3月20日発行



表紙のイラストは樋口太郎さんに子どもの頃のひなまつりの様子と、春の童謡から連想される子どもたちの遊びの情景を描いていただきました。いくつ歌詞が目に浮かびましたか？

樋口さんは老人ホームで絵手紙の指導をされています。一緒に絵手紙のボランティア活動をする人を求めています。ご希望の方は大和市民活動センターまでご連絡。

### センター運営の仕組みが変わります。変わらないことは...

～2008年度の大和市民活動センター運営の仕組み～

平成16年11月、多くの市民や市民活動団体、事業者の力を結集し、大和市民活動センターは誕生しました。それから3年5ヶ月、公募市民による協働の拠点運営委員会と市が協働で当センターの運営をしてきました。ご承知のように、現在、協働事業は検証中であり、協働の拠点運営委員会も平成19年度末で協定が終了することになっています。このたび当センター管理運営団体の公募にあたり、協働の拠点運営委員会は運営会議の審議を経て、準備会を発足させ、応募しました。

選考の結果、私たち「拠点やまと」（協働の拠点運

協働の拠点運営委員会 会長 関根孝子

営委員会改め)が補助金対象団体として決定し、平成21年3月までの1年間、当センターの管理運営にあたることになりました。

協働事業としての運営と違い、補助金交付団体としての運営は市との関係において対等性は担保されてはいませんが、市民が運営する市民感覚は健在です。今まで同様、みなさまの想いを実現するために、共に育っていくセンターに変わりはありません。これからも一緒に、あの手この手で課題解決に取り組みましょう。



## 8回連続で実施してきた

3月5日(水)に開催しました

## ともいく 共育セミナー

## 「市民活動団体と 企業・事業者との縁結び」

ゲスト 白川富一さん

白川さんはイオン株式会社 関東カンパニー神奈川事業部 大和鶴間店の副店長さんです。

イオン株式会社が取り組んでいる「イオン幸せの黄色いレシートキャンペーン」を通して、サポートを必要としているボランティア団体と応援したいお客様を結び取り組みを展開中。

おこぼれごち、課題を解決するボランティアだ。



イオンでは毎月11日を「イオン・デー」と定め、店舗周辺、246側道の清掃活動と、「幸せの黄色いレシートキャンペーン」を行っています。11日の黄色いレシートを地域のボランティア団体の箱に投函することで、レシート金額の合計の1%をそれぞれの団体に還元するというシステムです。白川さんは「地味な活動をしている団体にスポットを当て、お客様に知っていただきたい」とお話をされました。

ご自身も環境問題に関心がおありで、横浜国大の宮脇

名誉教授の指導のもと、植樹活動を行っています。

色々な木を植えることで、森が活性化するのは企業経営にも通ずるとのことでした。参加した方からの「イオンの草木は何故かぼうぼう」という声に、「イオンの森づくりは人工の森は作らないというポリシーで、きちんと管理されている」とお答えになりました。

2010年までに50%にしようとレジ袋削減の「お買物袋持参運動」も展開中です。

### 2月5日(火) < なないろばたけ農場 > ~ 毎日がダッシュ村、毎日がアースデイ ~

「なないろばたけ農場」は、CSA(コミュニティ・サポート・アグリカルチャー)という経営形態で地域コミュニティがみんなで農業をサポートするという意味です。安全で安心な有機野菜は、調味料がいらぬくらいに美味しく甘いと会員の方々から好評を得ている。代表の片柳さんは、「毎日食べるものが安全で安心なことが一番大切。作物はそれを食べる人たちみんなが関わって作るものだと思います。現代は個人が砂粒のように孤立しています。農業を通じて人と人の垣根をとりはらいたい」と語った。体験、見学歓迎の農場です。連絡先 080-5499-9069(片柳)

### 2月12日(火) < ICLインターナショナル・ コミュニケーション・リンクス > ~ タオル人形はコミュニケーションツール ~

タオル人形作家の及川さんが無認可の保育園を営んでいた時、保育さんが園児へのプレゼントにと、タオルを糸で縫い合わせて人形を作っているのを見て、糸の代わりに輪ゴムを使い遊び心で作ったのが、はじまりだったそうです。汚れたら輪ゴムをはずして洗え、また違う人形が作れるという優れものです。

及川さんがお父さんを中国に連れて行った時、添乗員さんがマフラーの先に輪ゴムで作った熊を見て、タオル人形をせがまれ、作っている間に人垣が出来て、おおごとになり、困ったそうです。その時、言葉が通じなくてもコミュニケーションは十分とれるということを実感したそうです。タオル人形を子育て・福祉(老人施設、地域作業所)などいろんな場所でコミュニケーションのひとつとして活用してほしいと、地域にどんどんひろめていきたいと語ってくれました。

連絡先: 090-8616-6561(及川)

### 2月19日(火) < 大和泉の森作業所 > ~ 障害者の社会参加を目的に活動 ~

障害を持つ人が社会活動に参加できるようにと大和泉の森作業所は10年前に生まれました。地域の方々に大和には200人近くの障害者が10ヶ所の作業所で、小中学校の教材の袋詰め、雑誌付録の袋詰めなどの根気のいる作業に一生懸命向き合っている事を知ってほしい。そこから理解がうまれます。障害を持つ人も持たない人も共に生きる、同じ時代と一緒に生きる為には、地域、社会皆で支えていきたい。と所長の山岸さんが熱く語りました。

連絡先: 046-264-2218(泉の森作業所)

### F M やまと

77.7  
MHz

「やまとっこ  
みつけた」

毎週  
(火)

9:05

1

9:30

a.m



### 2月26日(火) < ふくろう工房 >

~ ものづくりからひろがる人の輪 ~

難しいと思われがちな木彫を誰もが楽しめるように、センターでも月に1~2回木彫教室が開かれています。「自然の象徴であるふくろうを好きになったことが活動の原点」と主催の白井さん。教室は1回4時間、皆夢中になるが、休憩時間のおしゃべりも楽しみ。「木のぬもりや、彫ることで自分を形作っていくことの喜びを多くの人に伝えたい...」活動にはそんな想いが詰まっている。連絡先: 090-8089-1438(白井)

### 3月4日(火) < ワーカーズ・コレクティブ想 >

~ 人間の尊厳が守られる暮らしのサポート ~

高齢になっても、障害をもって住み慣れた地域で自分らしく自然に生きて行く為に、大勢の人々がお互いに認め合い助けあって、誰もが精一杯生きていける社会を目差してがんばっています。

現在約400名の利用者を「あたたかく・心ゆたかに・いきいきと」そんな思いで200名のワーカーが支えています。家事サービス、介護サービス、介助サービス、産前・産後のサービス、子育て支援などの支援を行なっています。連絡先: 046-271-4165(NPO 法人ワーカーズ・コレクティブ想)

### < パーソナリティ、ジョニーさんからひとこと >

~ アロハ ~ 体重増量中

あなたのジョニーです ~

昨年スタートしたこのコーナーですが、早いもので、10以上の団体の方々にご出演いただきました。出演時、最初は緊張されている方も多く、カチンコチンになっていたりしますが、次第に熱を帯びて饒舌に話される姿を見て、その活動への情熱、胸中に秘めた想いと活動内容に、ついつい聞き入ってしまいます。これからも、皆さんの素晴らしい活動をひとりでも多くのリスナーに伝えられるように頑張りたいと思います。

また、FMやまとの各番組は、リスナー参加型となっておりますので、リクエストやメッセージ等、ご参加もお待ちしております。これからも、皆さんよろしく願います。

連絡先: 046-264-5061(FM やまと)

<フォーラムレポート> 日本の各地に広がる「協働」のうねりを感じたフォーラムでした。

NPOと行政の対話フォーラム 08 「温故知新」～めざす連携の姿とは

主催 = 日本 NPO センター 2008年2月20日(水) かながわ県民センター

「フォーラム」報告 = 参加者/小杉 皓男

400 人が入る会場は満杯。朝、受付で渡された参加者名簿を見る。200 名ほどの名前が列記。弘前市、岩手県、宮城県、いわき市、から始まって香川、福岡と。大和市からは市民活動課の豆塚さん、船越さんのふたりに大和市民活動センターから私の3名。

最初に鼎談あり。「市民社会創造の10年～NPOと行政の関係から見えるもの～」と題して、3期12年07年1月退任された前

我孫子市長職の福嶋さん、現高浜市長・森さん、日本 NPO センター副代表理事・山岡さんの登壇。

「市長」職は過去のものとしつつその経験を基本に、現在は縛られずの発言が可能なので、市民と行政のリアルなやりとり、シーンの紹介は象徴的でありました。

私の結論。徹底して「市民参加」、徹底して「対話」だと、福嶋さん。まだまだ市民は「対話」を避け、行政にお願い、要望、陳情をする傾向がある。これでやっていけるなら、こんな楽なことはない。しかし、もうこれでは「市」運営をやっていけないのは明白。荒療治として、例えば聖域と言われる補助金受託団体をまずゼロにし、既得権を廃止。何が今必要なのかを市民+行政が徹底「対話」のなかで見極めていく。その関係性、感覚を学ぶなかで「新しい公共」の「協働」が見えてきたと熱く語る。

神奈川県、横浜市をはじめ、愛知からは「あいち協働ルールブック'04」が会場に配布されるなど、「協働」することの課題、問題を抱えつつも、二歩前進一歩後退の模索のなかから不可避免的に確かな広がりを見出し得るのではないかと思わせてくれる「フォーラム」でした。

分科会では「受益者を見失わない協働事業を維持するための評価とは」というテーマに参加。

事例報告として愛知県社会活動推進課から太田さん、横浜市協働推

特別プログラム 2月21日(木)

何のため、誰のための  
支援センター？

参加者 事務局スタッフ 石川美恵子

市民活動支援施設は、公設民営、公設公営、民設民営ともに2000年頃から急速に増加し、2002年をピークに増加の推移をたどっているとの現状説明がありました。

それぞれの施設での課題は様々だが、市民活動は多様であるがゆえに、スケールメリットが見えにくいことを認識して、今後の目指すべき方向をどのように考えるのか？というところで、他のセンターとの違いを明確にして、時代の変化にどのように対応していくのか、ポジションをしっかりとしておく必要があるとの指摘を受けました。

センター運営を、誰が、どのように担うことが最善なのかを考えて、時代の流れを見て事業展開するよう、3年スパンくらいで事業計画を組んだらどうか、とのアイデアをいただきました。

午後からは参加者が4施設に分かれて見学に行きました。

私が見学した横浜市市民活動支援センターもセンター施設を含めて、運営も方向転換の時期にきているとのことでした。

それぞれの施設がアイデアを凝らして市民活動を活性化させるべく努力することが大事だと認識しました。

進課から林さん、いずれも世代的に若い女性の登壇。悩みながら試行錯誤しながらも歩を進めているとの報告でした。

何を目標達成とするか。その定め方が難しい。進めた効果はあったかもしれないけれど、いつの間にか、結局いわゆる「下請け」に終わってしまったかもしれないなどの問題提起もありました。

「フォーラム」の関係各種資料は大和市民活動センターにあります。

「オークン」へ行ってきました(今回はカンボジア料理)  
～おいしく食べて国際交流～ その5

大和市には外国人が約 6,500 人います。大和市民の3%を占め、その内、カンボジアの方は約 160 人居られます。

“カンボジアレストラン オークン”は鶴間駅の階段を降りたすぐ斜め前にあります。

店内にはアンコールワットの絵、お国ゆかりの展示物などで雰囲気があり、王室にも料理を届けていたという、おばあちゃんから伝わるレシピをおいしくアレンジし、注文を受けてから一品一品作って出してくれます。甘酸っぱく、ほど良いピリ辛でヘルシーな感じの家庭料理。食材は日本の野菜や肉を使い、香辛料の一部はお国から取寄せリーズナブルに味わえます。

店主のペンピトラさんはエンジニアをめざして26年前に来日したが、思い半ば、町田駅付近で実姉が開いていた“アンコール・トム”を手伝いながら料理を覚え、1年3ヶ月前に鶴間駅前に出店して、自ら切り盛



りしています。日本語を更に勉強中で、その日本語の先生はお客さんになってくれています。一方、自らもカンボジア語教室をこの店で開き、一期生4名、2期生3名、カンボジアで仕事をしたい日本人7名を教えている、なかなかの努力家です。

<カンボジアの紹介>

1954年フランスの保護領から独立した比較的新しい国。独立したが政情は不安定、戦乱が続くポルポト政権時代、国民の1/3が死んだといわれている。今は安定し、発展途上にある。

クメール文化の精華、アンコール遺跡群は世界遺産です。9～15世紀、アンコール王朝時代に造営。もともとはヒンドウ教の寺院で王朝の滅亡後に仏教の霊場として尊崇を集めた。北に隣接するアンコール・トムは巨大な都城遺跡、正方形の敷地の中央に54基の仏塔が林立する寺院バイヨンがある。(平凡社 世界大地図帳 より一部引用)

～メニューの一部～

クイティオ(汁米麺)、バイチャー(焼飯)、カンブチアタヨー(揚春巻)など

お国言葉(クメール語)

ありがとう: オー・クン  
おいしいね: チュガイ・ナツ  
こんにちは: チョムリアブ・スーア  
さようなら: チョムリアブ・リーア  
相槌を打つ はい:(男)パー、(女)チャー

大和市鶴間2-2-18本ビル  
TEL: 046-273-8004  
開店: 11:30～16:00  
17:00～22:30  
休日: 火曜日  
http://www.tokun.com/

小田急江ノ島線  
藤沢へ  
オークシティ



## 街で見つけたよ!

### <春はすぐ近くに>

手入れの行き届いた花壇を大和警察署前に発見。色とりどりのパンジーが蕾を硬くして、春の訪れを待っています。ふっと見上げると桜の蕾も...寒さに耐え、暖かい日差しを待ちわびているのは、草木だけではなく私たち人間も同じ。

出会いと別れの季節を迎え、市民活動センターの春はどのように迎えているのでしょうか。

新しい出会いに胸膨らませているのは私だけではないはず。(T.M.)



### オマケ

ふと見上げた桜の木の下に、な・な・なんと 13 号でお伝えした「忍者ハットリくん」の看板が...他にもあるかもしれませんが、皆さんも探してみてください(笑)v

\* この花壇は「大和ピーエス花壇愛護会」が手入れをしています  
(財)大和市スポーツ・よか・みどり財団が主催する平成 19 年度第 13 回まちかど花壇コンクールで金賞を受賞しています。

## 大和市民活動センター運営に参加してどうでしたか

企業社会を卒業して、世話になっている地域社会にお返しをと、市民活動センター・サポーターになった。この世の中、気になることは多いが、ボランティアとして無理をせず知識経験を活かして元気に活動していきたい。(浅見正明)

試行錯誤を繰り返した一年でした。普通の主婦にはできない経験をさせていただき、その経験が自分にとっての宝ものになりました。お世話になった多くのみなさま、貴重な時間をさいてください、本当にありがとうございました。(山田裕子)

事務局に参加して、あっという間に3年経ちました。その間、センターがまさに「共育」の精神で皆で力を合わせて徐々に形を整えていく姿に直に触れることができたことは、私にとって大変勉強になりました。(中山みゆき)

当センター運営委員となる前、直接市民活動に携わる機会もありませんでした。しかし、センターの活動として交流会、講演会、研修会等を通して学ぶことが多々ありました。特にボランティア活動をしている女性の方々のパワーは実に頼もしいと実感し、子育て中または既に終えた中年女性に対する自分の考えも大分変わったと思う今日この頃です。(吉田正美)

「私自身と万物が幸福で平和でありますように」。最近始めた「チベット体操」を行なう際のマンドラです。市民活動コーディネーターに必要な粋(息)に通じます。NPO活動を紡いで、糸、布、着物にしたいです。ね、石川さん!(船越英一)

ひとつの節目となる当センターですが、みんなと楽しく「共育」しています。「ネクタイ背広おじさん族」から少し脱皮できたと思っています。洗い顔して振り返るより、ヤッタ、やった!とこれも素直に喜びたい気持ちです。(望月則男)

今も、昔も、これからも、ここには“何か”がある、とても気になる場所です。これからもよろしくです。(山本春美)

大和市民活動センターが市民活動団体にとって文字通り「大」きな「和」となる拠点として、ますます発展されますように。(佐藤幸雄)

私の好きな場所、イチヨウの木のように大和に根付け。(豆塚登美子)

センター開館と同時に3年5ヶ月。ふとした間違いから広報部員になってしまい、師匠と鬼編集長の二人から広報のイロハを教わりました。もうそろそろセンスのある記事を書きたいのです。(関根孝子)

過ぎ去った2年間、色々な事がありました。いろいろな人との出会いや、コミュニケーションを通して、一言の言葉で笑ったり、怒ったりの会話を聞きながら、言葉の重さや大切さを再確認させられました。(桜井貞代)

いろいろな人との出会いがあって、そこから新たな繋がりが生まれ、思いもかけない広がりになっていく市民活動のおもしろさを実感しています。何よりも人が好き、人が面白いと思える自分の“天職見つけた!”かな?(石川美恵子)

大和市民活動センターは必要とされて生まれ、3年間、維持されてきました。2008年度もともかく存在することになりました。なぜ「センター」という装置が必要なのか、どんな在り様が市民にとってふさわしいカタチなのかをさぐる実験と挑戦の08年度だと思っています。(小杉皓男)

## 今期最後 みんなで熱血編集記



開設以来3年を経過して、ようやくセンターとしての機能も充実してきました。関係する方々に助けられながらの、文字通り共育の期間でした。登録団体200を超え、色々な目的で利用されていますが、これからも信頼されるセンターでありたいと願っております。(間瀬富隆)

\* 今号の用紙は桃の節句にちなんで桃色を用意しました。